

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690500119		
法人名	株式会社 ミタホーム		
事業所名	ありがとうホーム氷見(認知症対応型共同生活型介護)		
所在地	氷見市十二町135番地		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成28年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは自然豊かな場所にあり、近くの公園には白鳥の飛来地があるため寒い中でも散歩に出掛けています。理念や方針にあるように特別な幸せではなく毎日の幸せを実現できるように、また、その人らしさを大切に想いや願いを受け止め、共感できるように支援しています。一人ひとりの思いや意向に沿えるように、その人らしさを大切にできるよう本人・家族・職員が協力し合っています。いろいろな事に全員が関わったり参加したり全員でつくりあげているありがとうホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念に基づき「その人らしさを大切に」をホームのケア方針に掲げ、その人らしさを引き出す個別ケアをカンファレンスやミーティング等で検討し、介護計画や日々のケアに反映させている。ケア方針に沿う支援として利用者の思いや願いの把握に努め、できるだけその思いを叶えたいというスタッフの熱い思いがあり、今年度は利用者が行きたいと希望した高岡大和へJRを利用して出かけ、外食や買い物を楽しんでいる。今回の取り組みを実行するために、地域や施設へ事前に協力をお願いするなどスタッフの活発な活動が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念や方針を掲示し、常に意識を持つようにしている。カンファレンスでは「その人らしく」を基に話し合われている。行動目標を計画はしているが、なかなかたどり着くことが出来ない。	事業所理念に基づき、職員の意見を反映したケア方針「その人らしさを大切に」を掲げ、ホームの玄関、休憩室等に掲示して全員で共有を図っている。また、月1回のカンファレンスでは、ケア方針に沿った個別のケアを協議し、日々のサービスにつなげている。	管理者が計画している理念に沿った行動目標の実践に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出て挨拶を交わしたり買い物に出掛けたりし、触れ合いの機会をつくっている。“JRと大和”という言葉から氷見線に乗りJRの協力も得て大和まで出かけた。	町内会に加入し、地域行事に参加したり、散歩や買い物時に出会う地域の人たちと声をかけ合うなどつながりを深めている。また、ホームの納涼祭に地域の方々を招待したり、地元保育園とは園児の来訪や利用者の手作りゴミ箱を送るなど相互交流を図っている。	ホームは2つの町内の境に位置し、今後は2町内との交流が深まることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行の広報を地区の回覧板と一緒に回したり、運営推進会議では地区の方々にホームの状況を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政機関、家族、地区の方々に参加して頂きサービス状況や行事の取り組みを報告、意見交換を行いながらサービス向上につなげている。	会議には地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員などの参加により、ホームの運営状況や活動報告をしながら、委員からの意見や地域情報等を得ながら、ホームの運営等に活かしている。家族には交代で出席していただき、家族からの忌憚のない意見・要望が聞ける機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、担当者に相談し意見やアドバイスを頂いている。	運営推進会議の委員である市担当者には、ホームの取り組みや実情を知っていただいている関係上、気軽にいつでも相談・助言がもらえる環境が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、人権や生命を守ることに意識しており職員間で理解している。やむを得ず必要となった場合は、家族・職員で十分な話し合いを行っている。	事業所内安全対策委員会が中心になって開催している年4回の勉強会で、身体拘束について具体的な内容やリスクの理解を深め、日々、身体拘束をしないケアが実践されている。また、やむ得ず身体拘束をしなければならない時の手続き上の書類は準備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待も含め観察・確認・注意をして防止に努めている。担当の委員会が中心となり勉強会が行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部から講師を招き勉強会が行われた。必要に応じて活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能であれば本人にホームへの見学をすすめ、契約時には説明書に基づき、十分に理解を得たうえでやっている。不安や疑問点についても納得いくまで説明し理解をして頂いている。利用中の変更についても家族ごとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡等を通し話す機会を多く作り意見や要望を引き出す場面を作っている。	家族が参加する運営推進会議や面会時を活用して、意見・要望を積極的に聞き取るように努めている。把握した内容により現場職員で検討したり、上層部へ報告し検討するなど運営やサービスに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日頃の会話より話す機会を設けている。	事務長が参加する月1回のカンファレンスで、職員は意見要望を直接言える機会がある。また、日常的には管理者が職員と話しやすい関係を作り、職員の思いを聞き取り個別相談にも応じている。内容によっては2ヶ月ごとの法人管理者会議で協議し運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、仕事に対する姿勢、取組みなどを把握するとともに、個々の強みを生かせるような職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量を把握し、外部研修への積極的な参加を呼び掛け参加している。研修後は報告書の作成、他職員への知識の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講演会等への参加はしているがネットワークづくりまでは、まだまだである。質の向上を目指すために、交流の機会を更に増やしていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報、生活歴から本人に合わせたコミュニケーションをとり、本人と向き合い困っていることなど本人の気持ちを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で十分に話を聴き受け止めた上で、不安や要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人・家族の意向、要望に応じることができるのか考慮し、希望に沿えるように話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持ち、みんなが支えあえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族だけでお茶を飲む時間を作ったり職員も交えたりしながらゆっくりと過ごしてもらっている。近況や状態を伝え、可能なことは協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの医療機関・商店・美容院など家族の協力も得ながら関係を途切れさせない支援に努めている。	家族の了解の下、鍵を預かり、「家に帰りたい」という利用者には自宅へ連れていったり、毎日家族の迎えて自宅へ帰る利用者もいるなど、利用者の思いや馴染みの関係性が途切れない柔軟な取組みを行っている。今年度は「昔行った大和へ行ってみよう」という声に応えるため、事前の下見やJRの駅員に協力をお願いしながら準備を整え実行し、利用者大変喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握している。関係を大切にしながら孤立しそうな入居者には職員が中に入り、共に会話をしたり活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族や他事業所からの問い合わせや相談にはフォローしている。その後の経過を見守るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、思いにしっかりと耳を傾け、言葉の少ない方には表情を大切にしている。家族からの情報も合わせて、思いや意向を尊重し職員全員で話し合っている。	日々の言動やしぐさなどから把握した個々の思いを個別支援経過に利用者の言葉で記録し、担当者がアセスメントシートに整理して、介護計画の見直し等に活かしている。	遅れがちな記録の整理が滞りなくできる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など、本人や家族から情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の中で、できる力、わかる力を発見できるよう関心を持って関わっている。発見があれば記録に残し職員全員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、より良く暮らすために本人・家族と話し合い見直ししている。必要に応じて医療機関に相談もしている。	担当職員が3ヶ月ごとにサービスの進捗状況を「個別評価表」に整理し、職員全員が出席するカンファレンスでサービス内容を協議している。介護計画は6ヶ月ごと、あるいは、心身変化時は随時見直しを行い、適切な介護計画になっている。家族の要望・提案は、事前に聞き取り計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりの中から気づきを記録に残し情報を共有している。見直し時には記録や話し合いをもとに計画している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は、事情に合わせ家族・ホームが協力し合い行っている。買い物・外出・外食など希望があるときには応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食や買い物に地域の店舗を利用したり、ボランティアの演奏や歌・踊りも楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続したり、入居を機会に変わることを希望される場合には、本人の状況に応じて本人・家族の納得できる医療が受けられるように支援している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医が選択できる。家族の受診付き添い時には、「つながりノート」を持参してもらい、ホームでの生活・身体状況を情報提供して適切な医療に繋がるようにしている。緊急時は職員による受診同行、週1回の訪問看護師による健康チェックなど、日々良好な体調維持につとめている。また、各かかりつけ医とは24時間の連絡体制が整い、状態に合わせていつでも受診や相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し相談している。状態の変化があれば、ホームの看護師に24時間連絡可能で、相談やアドバイス、指示を受け適切な受診や看護が受けられるように体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携室と退院に向けての話し合い、相談をし関係づくりをしている。お見舞いにも出掛けて状態を職員間で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明や状態の変化に伴ってその都度、話し合いが行われる。事業所としてできることも含め医療・看護師・職員がチームとなって支援している。	契約時に「重度化した場合・看取りにおける指針」を提示し、出来る事・出来ない事を説明して「看取りについての事前確認書」を提出していただいている。利用者が重度化した場合や家族が看取りケアを希望された場合に備え、体制の整備や充実に向け準備が行われている。	事業所の委員会活動を利用し看取りケアの研修を実施して、職員全員で看取りケアの理解を深める取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応等には勉強会で委員会が中心になり身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害・防災訓練を消防署の立ち合いの下行われている。運営推進会議では地区の担当者に協力の依頼はしてあるものの具体的な訓練は行われていない。	年2回消防署の協力を得て、利用者と一緒に火災訓練を実施している。災害時の避難場所の確認や非常食や水、非常袋が備蓄されている。運営推進会議委員から、町内会会議で災害時の協力について話し合っているとの報告を受けている。	運営推進会議の場を活用して、地域との具体的な協力体制を築く取り組みに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より声の大きさや内容などの配慮を心掛けている。言葉遣いも、なれ合いにならないように注意している。	事業所内の接遇向上委員会が中心になって年4回勉強会を開催し、利用者の人格やプライバシー確保に関した接遇方法について理解を深めている。日々のサービス提供時には、職員間で注意喚起しながら実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表現できるような関係を築き声掛けにも工夫している。表現や少ない言葉を見逃さず聞き逃さないようにし、本人の思いを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にし、暮らしの継続ができるよう支援している。希望によっては、散歩・ドライブ・買い物など思いに沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶことができない方にも選択できるよう数点の中より選んでいただいたり、季節に合わない格好をしている方には、さりげない声掛けをしている。本人の思いは大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に献立をたてたり、買い物で希望の食材を買うこともある。食事作り・盛り付け・下膳・食器洗い・茶碗拭きまで共に行っている。	利用者の嗜好や希望・季節感を大切に献立を立て、利用者と一緒に買い物に出かけている。また、利用者の出来る調理の下準備や後片付けを職員と一緒にしたり、季節に応じたおやつ作りを楽しんだりしている。誕生会、お花見などの行事食や外食も取り入れ、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや見た目を大切にし、個々の摂取量・好み・形態を把握して提供している。水分についても好みを把握し、タイミングを見て補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは、声掛けや介助の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々のパターンを把握しており、それぞれに合った誘導をしている。さりげない声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して個別の1日の排泄パターンを把握し、時間ごとの誘導や声かけを行っている。利用者の状態に合わせて夜間のポータブルトイレ設置や食事や飲み物、運動等で自然排便に取り組むなど自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の情報を共有し、個々に応じた乳製品や食品、体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決められた曜日はなく、それぞれの習慣や本人の意向を確認し入浴して頂いている。拒否のある方には、無理強いするのではなく時間をおいたり声かけの工夫をしている。	体調や希望に合わせて毎日でも入浴できる体制を整えながら最低週2回を目安に介助している。ゆず・菖蒲・みかん湯なども準備し、季節を感じながら職員と1対1で利用者のペースでゆっくりと入浴している。移動状態が悪化しても安心・安全に入浴できるよう、浴槽にリフトが整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を変えることなく、それぞれのリズムを守っている。その日の状況に合わせて、くつろげる場所で自由に休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイルにして随時、確認できるようにしている。食物残渣がある方には、うがい後に服薬している。本人の状態の変化には、主治医や薬剤師に相談、服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事では季節感のある催し物を行っている。また、季節の食材を利用している。食事作りから片付けの作業も、持っている力に応じて行っており役割を持ち、頼られる喜びをもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、ドライブ・買い物・外食に出掛けている。自ら言い出すことがない方には、近所に散歩に出たり、近くの公園に出掛けたりしながら気分転換をしている。	年間行事計画表を作成し、季節の花見やドライブ・道の駅での買い物などを楽しんだり、回転寿司、ファミレスでの外食など、閉じこもりにならないよう心掛けている。暖かいときは近くの水郷公園へ散歩がてら野鳥を見に出かけ、地域の人たちとの交流にもつながっている。また、利用者が「昔、汽車に乗って高岡大和に買い物によく行ったよ。」の話から、JRの協力を得て高岡大和に出かけ、買い物や外食など楽しいひと時も体験する支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、出掛ける際には自分で支払うことができるように支援している。出納帳をつけており定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、すべてではないが電話は掛けて頂き、取次もしている。家族も協力的である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快のないように努め、壁には季節の貼り絵や飾り等を飾っている。休める場所も、こたつやソファがあり、それぞれが居心地よく休めるようにしている。	共有空間は天井が高く広々と明るく開放的である。床暖房や加湿器が整備され室温・湿度に配慮している。小上がり畳の間に炬燵を設えたり、ソファ・椅子が適所に配備され、利用者が思い思いに過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、自分の居室に行き来したり、入居者同士が居室を行き来する場面も見られる。こたつやソファでそれぞれが思うように過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの品物の持ち込みをお願いしている。本人と家族で部屋づくりをして頂き、危険のある箇所については相談し工夫している。	居室にはベッド・エアコンが整備され、自宅から使い慣れた家具・家族写真・好みの装飾品が持ち込まれている。利用者の使いやすさや自分の部屋だと認識していただけるよう、利用者・家族の意見を取り入れたレイアウトに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札はないが、わからない人には目印がある。危険の無いように動線に配慮して自由に動けるようになっている。混乱する人には付き添ったり声がけをしている。		

(別紙4(2))

事業所名 ありがとうホーム氷見 グループホーム

作成日: 平成 28年 3月 31日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 29	地域との関わりが、ないわけではないが更に濃いものにしたい。誰もが満足できているとは思えない。	外出する入居者に偏りがないように、誰もが出向くことができ参加できるようにする。地域資源を大いに活用し、楽しみながら豊かな生活を送りたい。	日々の生活の中から、一緒にいろいろな情報を得て一緒に計画し出向く。業務優先になりがちだが、入居者の思いを優先し可能な限り思いに寄り添う。	12ヶ月
2	13 26	会話や言動を記録に残し、個々の思いを把握できてはいるが、中には現状も思いも理解できているのにどうしていいのか悩む職員もいる。	全員で考え、積極的に意見を出し合えるカンファレンスになるようにしたい。チーム全員で入居者、職員を支えたい。	少人数での意見交換から始め、ヒントを出しながら担当者の意見やアイデアを出せるようにする。担当者以外も相談されたら共有する情報から気軽に意見を言える関係をつくる。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。